

## 【イベントレポート】

### トリナ・ソーラー、PV EXPO 2025 に出展 ～発電と蓄電で太陽と未来をつなぐ次世代エネルギーソリューションを展示～

【2025年2月19日～2月21日/東京】太陽光エネルギー分野におけるイノベーションで世界をリードする Trina Solar Co., Ltd. (SH:688599) (以下「トリナ・ソーラー」または「同社」)は、東京ビッグサイトにて開催される「PV EXPO 2025」に出展しました。



ブースでは、「発電と蓄電で太陽と未来をつなぐ次世代エネルギーソリューション」をテーマとし、日本市場のニーズに応じて開発された最新の発電、蓄電製品および関連ソリューションを展示しました。会場では、日本国内外の太陽光発電および蓄電分野における最新動向と技術的洞察をご参加いただいた業界関係者の方々、メディアの皆様へ発表し、弊社ならではの見解と課題解決のための手法の提供を行いました。また、VR体験を通じて、トリナ・ストレージ工場の製造現場にて電池セルや電池パックなど、各種生産ラインの製造プロセスを直感的に体感いただきました。

動画:トリナ・ソーラー APAC 地域エネルギー貯蔵部門 プレジデント Leo による新製品説明動画。

URL: <https://www.youtube.com/watch?v=OYQVkk20b0U>

動画:3日間通じての展示ハイライトをまとめています。

URL: <https://www.youtube.com/watch?v=DCChwmlDYPI>

## ■Elementa 2 Pro 5MWh の発表:効率性をさらに高めた 5MWh モデル

海外ソリューションマネージャー黄韜(Huang Tao)によるプレゼンテーションでは、Elementa 2 Pro 5MWh を日本初発表しました。蓄電池の新たなソリューションだけでなく、システム容量<sup>※1</sup>を従来品より約 22%増加<sup>※2</sup>したこの新バージョンは、自社開発の 314A 高エネルギー密度セルを搭載し、国際的に広く採用されている標準 20 フィートコンテナサイズ<sup>※3</sup>を維持しながら、システム容量<sup>※1</sup>を 5MWh に大幅に拡大しました。このアップグレードにより、蓄電コストの効率がさらに向上し、より経済的かつ高効率な蓄電ソリューションを提供します。

※1 蓄電池システム全体がどれだけの電力を蓄え、供給できるかを示す指標。蓄電池本体だけでなく、インバータや充電器などの周辺機器も含まれ、

エネルギーの貯蔵量と放電能力を示します。

※2 2024 年に発表された Elementa2 4MWh と比較

※3 国際的に定められた海上コンテナの標準サイズの 1 つです。

## ■寒冷地対応住宅用蓄電システム

寒冷地対応住宅用蓄電システムに関するプレゼンテーションではトリナ・ストレージ APAC 地域住宅蓄電製品部長の劉佳より発表があり、海外メーカーとして初めて JET プロパゲーション認証を取得した家庭用太陽光・蓄電システムの 2025 年新商品を紹介しました。薄型で設置がしやすく、-25°C以上の環境への設置が可能となり太陽光をより効率的に、蓄電池でより経済的にソーラーライフをサポートします。

## ■最新の N 型 i-TOPCon Ultra セル技術を搭載した Vertex S+ NEG9R.28(Ultra)と Vertex N NEG19RC.20(Ultra)を初披露

製品戦略・企画管理部長 伊藤邦泰によるプレゼンテーションでは太陽光モジュールの市場や技術の最新動向について発表を行いました。

また、今後 5 年間の主流セル技術は TOPCon と予想されており、日本の住宅および商業用分野で使用できる最新の N 型 i-TOPCon Ultra セル技術を搭載した Vertex S+ NEG9R.28(Ultra)と Vertex N NEG19RC.20(Ultra)を初披露しました。

【Vertex S+ NEG9R.28(Ultra)】



【Vertex N NEG19RC.20(Ultra)】



TOPCon Ultra セルは、太陽光パネルの効率を大幅に高める次世代の太陽電池セルとして注目を集めています。この技術は、従来の裏面へのトンネル酸化パッシベーション膜(薄膜絶縁層)だけでなく、表面および端面を含めセル全体をパッシベーション膜(薄膜絶縁層)で覆う事により太陽光を電気エネルギーに変換する過程におけるエネルギー損失を最小限に抑えることで、より高い発電効率を実現します。製造プロセスは比較的容易に追加でき、その結果、大規模生産が可能となり、太陽光発電の普及を後押しする役割を果たしています。今回新たに発表された製品、Vertex S+ NEG9R.28(Ultra)および Vertex N NEG19RC.20(Ultra)に搭載されている、i-TOPCon Ultra セルは i-TOPCon セルに比べてさらに変換効率が高く、出力も高いことが特徴です。

#### ▽ トリナ・ソーラー(SH 証券コード:688599)について

トリナ・ソーラーは太陽光発電およびスマートエネルギーのトータルソリューションを提供するグローバルリーダーです。1997年に太陽光発電システムのインテグレーターとして設立されたトリナ・ソーラーは現在太陽光発電製品、太陽光発電システム、スマートエネルギーソリューションの3つの事業を世界170ヶ国以上において展開しています。トリナ・ソーラーは「新しい産業エコシステムを創造し、太陽光発電を中心としたスマートエネルギーソリューションの先駆けになる」という戦略目標を掲げ、電力システム改革を支援し、将来的なゼロカーボン世界の実現を目指しています。

日本においては、2010年にトリナ・ソーラー・ジャパンを設立してから、国内需要に合わせて最先端のフルライン製品を展開。パートナーの皆様と多数の実績を達成してきました。

#### ▽ トリナ・ストレージについて

トリナ・ソーラーは2015年からエネルギー貯蔵について研究を進め、ストレージ事業を立ち上げました。そして2021年から電池セル・製品・ソリューションという垂直統合型のBESSソリューションプロバイダーとポジションを明確にしました。現在、トリナ・ストレージはグローバルにおいて、100以上のパートナーと事業連携があります。交渉中のプロジェクトが10GWh以上、完工プロジェクトは5GWhあり、電池セル、蓄電システム、家庭用蓄電などのコア製品において業界をリードする研究開発・製造能力を有しています。研究開発においては、トリナ・ストレージは蓄電池研究所、電力エレクトロニクス技術研究開発センター、蓄電工学技術センター、デジタルエネルギー研究所という4つの研究開発プラットフォームを設立し、アメリカUL、ドイツTÜV SÜD、中国CNASなどからの認証取得済み。製造面においては、中国国内の安徽省滁州、江蘇省塩城に拠点を配置し、スマートスーパーファクトリーを構築することで、製品の量産と効率的なデリバリーを保証しています。

#### **Trina Solar トリナ・ソーラー・ジャパン株式会社**

〒100-0004 東京都千代田区大手町2丁目6番4号常盤橋タワー2606

<https://www.trinasolar.com/jp>

#### 【本件に関するお問合せ】

トリナ・ソーラー・ジャパン株式会社マーケティング部 胡 [wenjing.hu@trinasolar.com](mailto:wenjing.hu@trinasolar.com)